



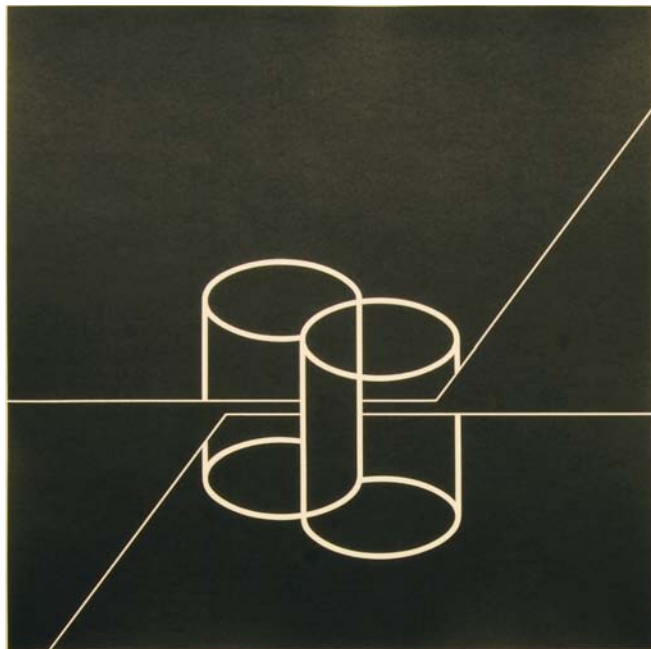
ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

船井裕展 展覧会開催のご案内

Yutaka Funai solo exhibition



昨年6月に逝去した船井裕の回顧展を開催します。

船井は学生時代に具体美術協会に参加して以来、デモクラート美術家協会を経て、画家・版画家として50年にわたる作家活動を続けました。本展では、今回の展覧会にあわせて修復され、50数年ぶりに公開される油彩画(1956)をはじめ1950年代から1990年頃までの油彩画、リトグラフ、シルクスクリーン、コラージュ作品など、約70点を展示します。

また、本展に併せ、今回の出品作品を含む、計約150点をフルカラーで掲載した船井裕作品集を出版します。

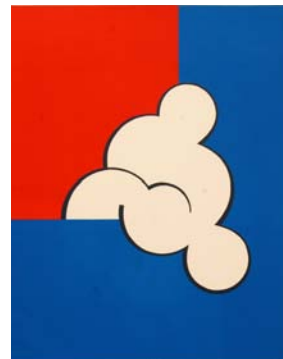
《CROSS WORD IV》：作品画像左 | 《TRAP 2》：画像下
1973/シルクスクリーン/49×49cm | 1967/リトグラフ/61×49.5cm

版画：1950年代後半に始められ、タブローやコラージュと同時進行的に制作された。エッチング、リトグラフ、シルクスクリーンなどの版画は船井には相性の良い表現媒体となった。なかでも1960年代後半以降制作された幾何形体の円筒形をモチーフにしたシリーズは数多とどまることのない展開を見せたが、そのスマートで機智に富んだイメージは、鮮明に船井を人々に印象づけるものであった。本展ではその初期作から、最終作までを展示する。

【作家の言葉】 船井 裕

靴下を裏返すことは誰だって出来る。手袋を裏返すのは少し手間がかかるが、これも出来る。しかしタイヤのチューブをそっくり裏返すとなると、事はかなり面倒になる。我々の日常的感覚、或は常識の範囲で考えるとこれは一見不可能な事に見えて来る。常識というものは直観を基盤にしているから、そうして見ると人間の感覚だの直観だのいうものも大してアテにならぬもの様である。そこで、モノを創る場合イキナリ自分の感覚から出発して総てを感覚的に処理してしまう、という様なやり方では、結局常識のラチ内をうろつく丈に終りそうだし、そうなれば作品に関する総ては個人の趣味の問題として片付けられてしまうだろう。精神に或る方向性を与え、創造的行為を喚び起こすものはロジックである。そしてこの行為自体はロジックの終る所から始まる、というのが僕の図式的定義である。

(※注：1975年頃の個展に際し、印刷されたと推定される資料より抜粋。)



【展覧会概要】

タイトル： 船井裕展 Yutaka Funai solo exhibition

会 期： 2011年6月 7日[火]～6月 25日[土] *日・月 休廊

会 場： アートコートギャラリー

大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開館時間： 11:00～19:00 (土～17:00)

◆レセプション： 2011年6月7日[火] 18:00～20:00

主 催： アートコートギャラリー

協 賛： 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、株式会社三菱地所プロパティマネジメント

● 出版のお知らせ 船井裕 作品集「Yutaka Funai」(仮題)

本展に併せ、船井裕作品集「Yutaka Funai」(仮題)を出版します。

【64ページ / B5判 / フルカラー / 発行：アートコートギャラリー】

【収録内容】

- ・ 出展作品を中心に：1950年～1990年の作品
- ・ テキスト執筆：菅谷富夫氏(大阪市立近代美術館建設準備室)
- ・ 随 想：「版画を始めた頃」 / 船井裕
- ・ 随 筆：フライフィッシングについての随筆 2編 / 船井裕
 - ・・・趣味を越えるほど打ち込んだフライフィッシングについての随筆は、船井の人柄や人生観、作家感を彷彿とさせる。
- ・ 作品リスト / 1950年～1990年 / 計約150点を収録

◎お問い合わせ：アートコートギャラリー 八木・大場 ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

E-mail:info@artcourtgallery.com URL:www.artcourtgallery.com TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449



ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

【作家略歴】

船井 裕 Yutaka Funai

- 1932 兵庫県神戸市生まれ
- 1954 具体美術協会結成に参加
- 1955 具体美術協会を退会／大阪大学法学部卒業／デモクラート美術家協会に参加
- 1957 デモクラート美術家協会解散
- 2010 逝去

| 個 展 |

- 1956 白鳳画廊 (大阪) '59
- 1962 北画廊 (大阪)
- 1964 東光画廊 (大阪)
- 1966 信濃橋画廊 (大阪) '73 '75 '76
ギャラリー安土 (大阪)
- 1967 あかお画廊 (大阪)
- 1968 ギャラリーココ (京都) '71
- 1970 画廊みやざき (大阪)
- 1974 ギャラリーピッコラ (大阪)／今橋画廊 (大阪)
ガレリア・グラフィカ (東京) '77 '78
- 1978 信濃橋画廊エプロン (大阪)
- 1979 「船井裕の20年 1955-1979」今橋画廊 (大阪)
- 1980 番画廊 (大阪) '83 '02
- 1981 ギャラリーなかむら (京都)／パティオ・ギャラリー (大阪)
「シルクスクリーン 1970-1980」番画廊 (大阪)
- 2003 ギャラリーKURANUKI (大阪)
- 2011 番画廊

| グループ展 |

- 1951 第15回自由美術協会展, 東京都美術館
- 1952 第16回自由美術協会展, 東京都美術館
- 1956 リトグラフィー9人展, 阪急 (大阪)
第1回グループ連合展, 大阪市立美術館
第6回デモクラート展, 梅田画廊 (大阪)
- 1957 第2回グループ連合展, 大阪市立美術館
- 1958 第1回グレンヘン国際色彩版画トリエンナーレ展 (スイス)
第1回グレンヘン国際色彩版画トリエンナーレ展入選日本作家, 白木屋 (東京)
- 1960 朝日新人展, 高島屋 (大阪)
- 1965 20人の方法展, 信濃橋画廊 (大阪)
- 1966 リトグラフィベスト3展, ギャラリーココ (京都)
戦後20年の日本版画展 (大阪)
- 1967 現代美術の動向展, 京都国立近代美術館
- 1968 現代日本美術展, ICA(ロンドン/英)
- 1971 第9回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展 (ユーゴスラビア)
- 1972 第4回クラコウ国際版画ビエンナーレ展 (ポーランド)
第3回国際オリジナルドローイング展 (ユーゴスラビア)
第9回マントン国際美術ビエンナーレ展 (フランス)
現代美術の鳥瞰展, 京都国立近代美術館
- 1973 第10回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展 (ユーゴスラビア)
瑛九とデモクラート展, 梅田近代美術館 (大阪)
- 1974 第6回イビザ・ビエンナーレ展 (スペイン)
第5回クラコウ国際版画ビエンナーレ (ポーランド)
第4回国際オリジナルドローイング展 (ユーゴスラビア)
- 1975 アート・ナウ '75 展, 兵庫県立近代美術館
日本版画展, フェアラ近代美術館 (イタリア)
第11回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展 (ユーゴスラビア)
ニューアウトルック展, ギャラリーココ (京都)
- 1976 第6回クラコウ国際版画ビエンナーレ (ポーランド)
第10回東京国際版画ビエンナーレ展, 東京国立近代美術館
毎日選抜展, 大丸 (京都)
- 1979 吉原治良と具体その後展, 兵庫県立近代美術館
- 1980 1980日本の版画展, 栃木県立美術館
- 1981 アート・ナウ 1970-1980展, 兵庫県立近代美術館
神戸招待現代美術展・平面へのアプローチ,
画廊ポルティコ／ギャラリーさんちか (神戸)
- 1982 船井裕・森口宏一展, 番画廊 (大阪)
- 1983 第1回大阪現代アートフェア, 大阪府立現代美術センター
- 1984 第2回大阪現代アートフェア, 大阪府立現代美術センター
現代美術 1950-1970展, 八尾西武ホール (大阪)
- 1985 Kitsch展, 番画廊 (大阪)
- 1986 今日のドローイング展, 信濃橋画廊 (大阪)
- 1987 もうひとつの版画展, 信濃橋画廊 (大阪)
- 1988 版画の4人展: 井田照一・木村光祐・黒崎彰・船井裕, 和歌山県立近代美術館
- 1999 31人の自画像点, 番画廊 (大阪)



《タイトル不詳》※本展のために修復
1956/キャンバス・油彩/91×65.5cm

初期の油彩: 最初期にあたる1950年代から1960年代のドローイングを見ると、若い船井が欧米のアヴァンギャルドの洗礼を如何に受けたかが如実に伝わってくる。それらを通じ試行錯誤しながら制作された油彩画は、現在僅かな数しか残されていない。



《Bla Bak》1962/
アクリル・木板・麻布・コラーージュ/130×162cm

コラーージュ: 船井は繰り返しコラーージュを制作しているが、1960年代前半に数多く制作された、杉板、ビニールなどを用い表面を焦がした作品は、同時代の日本の前衛美術の息吹をストレートに伝えるものである。生涯コラーージュ作品を制作した船井であるが、本展でのコラーージュの出展作は、表面を焦がしたタイプの大作が中心となる。